



都城市消防局総務課で勤務する権堀和千代さんは、本市初の女性消防士です。

甲斐元町出身の権堀さんは、人を助ける仕事に就きたいとの思いから、市内の医療機関で臨床検査技師として働いていました。そのような中、第一線で活躍する消防隊員の仕事に触れる機会があり、「より身近で人を助けられる消防士になりたい」「女性だからこそ、できることがあるのではないか」との溢れる思いで一念発起。平成29年4月、晴れて女性消防士に採用されました。

Smiling faces of miyakonojo

人の風景

半年間の消防学校での訓練を終え、最初に配属されたのは、北消防署の警防救助隊でした。ポンプ車による火災の消火や、交通事故での救急出動など、まさに第一線の現場。男性消防士との体力の差に戸惑うこともありましたが、「日々の訓練の積み重ねで、迅速な救助活動ができるようになった。常に向上心を持って働ける職場で、とてもやりがいを感じている」と自信を見せます。

また、救急患者の不安を少しでも取り除けるよう、女性ならではの視点で、積極的に声掛けを行い「女性の消防士がいてくれて安心したと言われたときは、嬉しかった」と笑顔を見せます。

人命救助の最前線に立つために、日ごろから緊張感を持って仕事に励み、健康管理と体力づくりも大切にしている権堀さん。その一方で「友人と旅行やランチに行くことで、リフレッシュしている」と今どきの女性の顔ものぞかせます。

現在、消防局総務課で防災広報を主に担当する権堀さんは、防災イベントや住宅用火災警報器設置の推進など、市民の防災意識向上のための広報活動に力を注いでいます。「救急現場や予防活動は、

細かな気配りが必要。今後、消防士は女性でも活躍できる職業であるということを広報していき、これから女性消防士を目指す人たちの模範になれるよう、向上心を持ってがんばりたい」と、目を輝かせていました。



都城市消防局総務課

こんぼり わちよ
権堀 和千代 さん

女性消防士の夢かなえ

さらなる向上を目指して

